

完走

この原稿を書いている頃(2月中旬)

は、新型コロナウイルスの影響により東京マラソンの一般参加が中止となり大騒ぎとなっています。今回の言葉物語はそれに因んだ訳ではありませんが「完走」という言葉を取り上げてみたいと思います。

5回リミッター機連想

この言葉は、2017年末から登場したパチスロにおける「有利区間・又は出玉上限」の完走を意味します。5・9号機では3000枚、6号機では2400枚と言われているのは、この有利区間を全て走り切った場合の上限と5・9号機では規定されていたものが、

6号機になり獲得枚数にも上限が設定されたことによるものです。従って単純に3000枚、2400枚と書いていてもその実状はやや異なるものとなります。詳細は割愛しますが、



6号機「HEY! 鏡」の完走画面。上限到達により強制的にエンディングとなる。とは言え、ここまで到達することは極めて稀で、殆どの局面では「完走」を意識することはない。(筆者撮影) ©Daito

現状の6号機での最大のネックはこの「一撃2400枚到達で強制的に終了」となる部分でしょう。

この情報を見た当初、私はパチンコ5回リミッター機時代の再来かと思

いました。それは1997年の社会不適合機の全撤去に伴う差し替え機のことです。連チャンは最大5回までという代物で、当時現場の第一線で働いていた時代を今でも思い出します。潮が引くようにお客様が来店されなくなり閑古鳥の店舗も多く、当たっても確変が終われば即止め。出玉の上限を強制的にカットすることは、ベテランの方

した。その時代を知る方であればあるほど、今回のパチスロの上限規制のリスクは大きく感じられたのではないのでしょうか。

ディスクアップの功績大

しかし、メーカー各社もその辺は考慮しているのか、この上限強制終了に極力至らないような出玉曲線を描く機種が多く登場してきています。特に、有利区間の移行に設定差を設けてはいけないという規定の部分をフルに活かして(…)登場したディスクアップの功績は、明らかにその後の5・9号機、6号機市場に大きな影響を残したと言えるでしょう。例えば、この機種を打ち切っている人達は皆「全設定共通確率のボーナスは荒れる」と理解している、即ち5・9号機の仕組みを良く理解した上で遊ぶ人たちです。5回リミッターのような一刀両断の仕組みではなく、規定や仕組みを設定判別を含めて理解した上で遊ぶ文化を創ってくれた同機の功績は図り知れません。

完走確率アップ機種も

というわけで、様々な変化はありながらも当面はこの2400枚完走という形は続くことになりそうですが、「殆



ご存知、名機「ディスクアップ」。ゲーム性もさることながら、5.9号機の最大のネックであった有利区間完走問題の最適解を導き出した点でも功績は大きい。©Sammy ©GINZA

どの局面でそれを意識することは無いようにしよう」という作りがメーカーの意思と見ることができ、またそれに対して市場も概ね受容しているのでしよう。それは多くの機種において完走確率が低いこと(実質数%程度)に起因するものですが、最近になって完走確率を上げた機種も徐々に見られるようになってきました。それは言い換えれば「伸るか反るか」のゲーム性であるというこの証左であります。6号機市場のゲーム性に慣れてきている局面でのユーザーの許容がどこまでになるか注目したいと思えます。

と、今まで紳士的に話してきましたが、いざ自分が完走を喰らうと「残りの頂対決とベルナビを返してよー!」となるのが人情。「せめて獲得したものは消化させてもらえようにはなりませんかねえ」とついつい考えながらエンディングを黙々と消化するのでした。

(大和田敏男)

仕組みを理解し遊ぼう

ぱちんこ言葉物語

90